ブラジル・ワールドカップ開幕戦

　１２日，サッカーＷ杯開幕戦当日，懸念された地下鉄のストは回避され，また，反Ｗ杯のデモも小規模にとどまり治安上大きな混乱は見られず，無事に開幕戦が開催されたところ，デモ・スト等に係る当地関連報道（フォーリャ・デ・サンパウロ紙及びエスタード・デ・サンパウロ紙他）等は次の通り。

１　地下鉄（メトロ）スト中止

　１１日２１時に，メトロ職員組合は１２日地下鉄ストにつき中止を発表した。１２日メトロ運行は通常通り行われた一方，組合はWカップ中のスト再度実施については，可能性がある旨発表している。スト騒動に絡み解雇されたメトロ職員４２名のうち数名（２名）につき再雇用の報道がある一方，組合側は一人も再雇用（解雇取り消し）はされていないと主張しており，ストの焦点はベースアップから解雇通告の取り消しに移行した様子もある。

２　市東部でのデモ

（１）「ワールドカップはいらない：６月１２日大規模デモ（Grande ato 12 de junho nao vai ter Copa）」は，約８，０００人の参加者を見込み，１２日１０時より市東部に位置する地下鉄Carrao駅からイタケロン・スタジアムへ行進するワールドカップ反対デモを計画。また，Carrao駅のあるタトゥアペ（Tatuape）地域では，同時刻に地下鉄（メトロ）職員労働組合の本部で解雇されたメトロ職員の再雇用を訴えるデモ及び公共サービス向上を訴えるデモ等も予定されていた為，前日１１日には複数のデモ隊が合流する可能性も報じられていた。

（２）市東部（Radial Leste：Carrao駅周辺地域）で１２日１０時に集結し始めた上述のデモ隊がエリアの占拠を始めた為，イタケロン・スタジアム（Ｗ杯開幕戦会場）に向かうアクセスを確保するよう命を受けていた軍警察は，１５０名の機動隊がゴム弾及び催涙ガス等を用いてデモ隊を解散させる対策を採った。離散したデモ隊は，同時刻にメトロ職員解雇の取り消しを訴えるメトロ労働組合本部で行われていた４，０００人のデモに合流。

（３）上記デモ隊に約１００人の「ブラック・ブロックス」のメンバーが紛れ込み，メディア車両や商店への破壊行為を始めた為，機動隊はゴム弾及び催涙ガスで鎮圧に乗り出したことでデモ隊は解散。軍警察との衝突から逃れた一部デモ隊が逃げ込んだことで近郊のショッピングセンターが一時閉鎖したが，１５時には再開。

（４）１５時過ぎ，「ワールドカップ市民委員会（Comite Popular da Copa）」はメトロのタトゥアペ（Tatuape）駅を警備する軍警察に抗議を行った。同駅では，一部デモ隊が駅の占拠を試みた為，軍警察と衝突を開始。軍警察１５時発表によれば，今回の市東部デモ騒動では公共物破壊等の理由で３名を逮捕した由。また報道によれば，今回の騒動で海外メディア（ＣＮＮのジャーナリスト２名）を含む１１名（報道により異なる）が負傷する結果となった。軍警とデモ隊との衝突はわずか３０分ほどで終了、その後平穏を取り戻した。

（５）軍警察は，上記のデモを含む４つのデモ内，３つのデモについて事前に押さえ込んでおり，大きな混乱には至らなかった。

（了）